

明石市議会議員 井藤圭順 レポート

人づくりのまち 明石をめざして



自治会の情報発信方法について



今回は自治会について質問しました。さて、みなさんお住まいの地域の自治会にはご加入されていますでしょうか。自治会は子どもたちが心豊かに、高齢者や全ての住民が安心安全で住みよい町にするために住んでいる方々皆が協力し、自主的に運営する組織です。

明石には479の自治会等の団体があります。年々加入率は低下傾向にあり、これは全国的にも課題となっているのです。

自治会加入率低下の原因とは

明石市の自治会加入率は平成元年では91.2%でしたが、令和2年には約71%にまで低下しています。低下についての主な原因は以下の3項目です

①	生活の利便性向上と個人主義的な考え方や自治会活動への無関心など、生活価値観の多様化
②	単身世帯や共働き世帯の増加や核家族化、少子高齢化による生活スタイルなどの多様化
③	集合住宅の増加に伴い、ゴミ出しなどがマンション管理組合でまかなえてしまうため

これからさらに少子高齢化が進むことが予想されるため、若年層の加入率が減少すると、自治会の運営が滞ってしまう恐れもあるでしょう。加入率の減少を食い止めるためにも、若い世代が加入しやすいような運営方針へとその方向性を転換していくことが求められています。



回覧板の役割について

自治会の情報伝達手段の中心的役割を果たしているのが回覧板です。回覧板には以下の役割が期待されています。

①	市民の生活に関わるものや、地域に密着した重要なお知らせを回覧するため、高齢者を中心とした情報弱者に対する伝達ツール
②	回覧の際に隣保の人たちが顔を合わせるためのコミュニケーションツール



近年、生活スタイルの多様化に伴って以下のことが確認されています。

①	共働き等昼間不在の世帯が増えていることにより回覧板が回り終わるまでに1ヶ月以上かかることがある
②	①に伴い行事などの期日が過ぎてから届くケースがある
③	新型コロナ感染を危惧し郵便受けでのやりとりが主流となり顔を合わせなくなつた



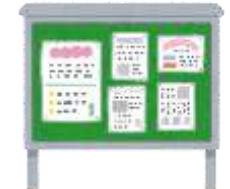
また上記以外にも、コロナに伴い自治会行事も自粛中止や規模縮小といった住民同士のつながりも希薄化しつつあります。

これを踏まえ、明石市内における回覧板の運用状況と、今後回覧板に変わる新たなＩＣＴを活用した情報発信について市の見解を質しました。

答弁 市民協働生活部長

これまで明石市が発行する広報文書の配布や掲示板へのポスター掲示などを自治会に委託しています。依頼件数は回覧文書が年間約60件、ポスター掲示が約50件ほどです。回覧板は近所同士の交流のきっかけや、高齢者世帯の見守り機能につながるといったメリットを期待しています。

一方、回覧板は完了までに相当の時間がかかる弱点もあることから、近年では回覧物をネット上で閲覧できないかといった意見も届いており、連合まちづくり協議会とも相談しながらオンラインを活用した効果的な情報発信について検討していきます。



総務省の統計によると13歳から69歳までのスマートホン利用率は92.7%となっています。また、SNSの代表格でもあるLINEの利用率は90%を超えており、今後も増加が見込まれています。



さらに明石市内においても一部の協議会・PTA・自治会では既にこれを活用した情報発信が行われており、有益であるとの声も聞いています。今後は自治会ハンドブック等において活用事例や活用方法などを紹介するとともに導入を検討している団体にアドバイスを行っていきます。

答弁を受けて

ＩＣＴの導入は自治会情報の共有による住民の参画推進や運営の効率化、また災害時対応にも期待できると考えています。阪神淡路大震災の際は、行政よりも近隣の人々の協力によって救出されたケースが多く、日頃から地域活動が活発な地域ほど救出率が高かったデータもございます。大震災を知らない世代も増えてきており、このまま自治会加入率が減少していくけば大きな災害発生時に地域で支えていくことは難しくなるため、コミュニティの再構築を推進し地域の人々が支え合える安心安全なまちづくりをしなくてはなりません。



大蔵海岸のさらなる利用促進について

昨年で大蔵海岸の陥没事故から 20 年が経過しました。明石市はこのことを大いに反省し、これまで大蔵海岸の整備に尽力し、今では安心安全な海岸となりました。東地区では以下の大会がこれまで開催されてきました。



フレスコボール
(ブラジル発祥のビーチスポーツ)



ビーチサッカー



アクアスロン



ビーチバレー



一方、西地区では潮干狩りなど自然と遊べる環境を目指して整備してきました。
そして 2021 年 7 月 22 日に『大蔵海岸公園自然観察センター』をオープンしました。



この自然観察ゾーンは 7 月 22 日にオープンし、10 月 31 日までの間の **土日祝日** に利用して頂きました。この間、メバルや黒鯛をはじめ 10 種類を超える魚類やタコ・イカ・蟹・エビ・ウミウシが観察されています。利用者は小学校低学年以下の家族連れが中心で、市内からが大半でしたが、神戸市垂水区からの来場も多く、また大阪府など県外からの来場者もありました。利用者数は延べ 1200 人でした。

自然観察ゾーン及び自然観察センターについて

手ぶらで気軽に生物に触れ合い観察が出来ることをコンセプトに運営が始まり、人工的に整備された自然観察ゾーンでは潮の満ち引きによって集まった海の生き物を触ったり捕まえることが出来ます。子供用のマリンジャケット・網・かご・マリンシューズなど無料貸し出ししており、保護者付き添いルールのもと家族連れの人たちで賑わっています。



そこで、井藤圭順も娘と2回参加してきました。潮が深いときは魚がいましたが、潮が引いたら魚が居なくなっていました。中には捕まえることが出来た方も居ますが、魚に触れ合えなかった家族連れも居るようです。そこで、潮が引いた際に潮だまりにもっと魚を確保するような仕組みを検討してはどうか。また、潮だまりで魚と触れ合えなかった方の対策として、センターでタッチプールといった小型の水槽を配備することは出来ないか質問しました。

さらに、営業が土日祝日に限定されているため、保育園・幼稚園・こども園・小学校の校外学習利用が困難であることを踏まえ、今後は平日でも予約対応出来ないか合わせて質しました。

答弁 道路部長

仕掛けについて何か良い方法があるか検討していきます。また、いつ行っても魚と触れ合えるタッチプールの常設は難しいですがイベント的に日を限定して検討していきます。
校外学習利用については小学校より1件あり対応した実績がございます。今後は一層の事前予約対応にも取り組んでいきたいと考えます。

市長答弁

私も気になって何度も足を運びました。実際に指導員の方から工夫の余地について聞いたところ、もう少し深く掘ることでスキューバダイビング的なことを親子でやるなど他の場所ではやっている事例もあるそうです。議員ご指摘のタッチプール的な発想も検討が必要です。初年度としてスタートを切ったことに意義があると考えており、いよいよ豊かな海づくり大会本番に向けてさらに知恵を絞ってチャレンジングに子どもたちに触れ合ってもらえる工夫にしっかり取り組んで行きたいと思います。



答弁を受けて

市長と担当部署から意欲的な答弁を頂きました。今年は全国豊かな海づくり大会が明石市で開催される予定であり、明石の海岸の良さを市内外にアピールする絶好の機会です。これからも大蔵海岸の魅力を発信し、さらには子育て日本一の名に恥じない市政に井藤圭順も全力で取り組んで参りますのでご支援のほど、よろしくお願ひします。